

剣道専門分科会企画

テーマ「武道の伝統性について考える」

講師：湯浅 晃（天理大学 教授）

司会：大保木輝雄（分科会会長）

酒井利信（筑波大学）

日時：平成 28 年 9 月 8 日（木）14：00 ～ 15：30（分科会総会終了後）

場所：皇學館大学 7 号館 721 教室

概要：

2006（平成 18）年 12 月に改正された「教育基本法」・前文において、我が国の「伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進」し、「未来を切り拓く教育の基本を確立し、その振興を図る」ことが改正の趣旨であると謳われている。そして、この教育基本法に則って、2008（平成 20）年 3 月に「中学校学習指導要領」が改正され、保健体育科において「武道」は必修化されたことは周知のことである。この一連の教育制度改革における我が国の伝統や文化の重視の姿勢は、グローバル化した世界状況のもとで国際的な協調・協力関係を築くためには、異文化に対する理解が必須であること。また、その前提として、自国の歴史や伝統・文化の正しい理解が是非とも必要であるという主張に基づいている。

このような伝統重視の方向性は、1987（昭和 62）年の教育課程審議会・答申においてすでに示されており、これを受けた 1989（平成元）年改正の学習指導要領において、従前の「格技」から「武道」への運動領域名の変更がなされ、「我が国固有の文化としての特性」を生かした指導が求められた。さらに遡れば、戦後の武道復活、日本武道館の創立、大学における武道学科の創設、日本武道学会の設立など、「武道の伝統性」への回帰的な眼差しは、私達の目に見えにくく、深い地場において照らし続けられていたといつてよい。

戦後に限らず近代以降、「武道」の復活と振興のキーワードは「伝統」であったように思う。「日本文化には伝統がある」、「伝統はすばらしきものである」、「伝統文化こそ日本人のふるさとであり、心の原点である」。だからこそ、「伝統を守り、次代に伝える責務がある」など、郷愁をもって訴える言説に支えられて武道は存続してきた感がある。

では、「そのように訴える人は、はたして本当に伝統を承け継いでいるのか?」、「伝えようとしている伝統を、そのまま次代の人々に承け渡してよいものであろうか?」、「そもそも、伝統とは何なのか?」、これらの問いについて、剣道専門分科会の皆さんと共に考えてみたいと思う。

弓道・なぎなた・空手道 合同専門分科会企画

テーマ「メディアと武道」

講師：佐藤 明（東北大学：弓道専門分科会）
塩山皐月（京都大学大学院：なぎなた専門分科会）
Harry Kearns（桜美林大学：空手道専門分科会）

日時：平成 28 年 9 月 8 日（木）13：30 ～ 16：30

場所：皇學館大学 7 号館 722 教室

ヘリゲル「弓と禅」をめぐって

講師：佐藤 明（東北大学：弓道専門分科会）

ヘリゲルの著した雑誌『文化』に掲載された「弓術について」（1936）、その改訳である「日本の弓術」（1941）、そして、1948年に発行された「弓道における禅」、3年後に翻訳改題された「弓と禅」は、弓道界だけではなく哲学・宗教など思想界にも反響を与え、メディアでも取り上げられ、広く一般の人々の弓道への印象を醸成してきたことは注目される。この書に登場する師である阿波研造に関する書もいくつか刊行され、阿波が捉える弓道にも関心が向けられている。人々が興味を示す弓道の一側面を考察したい。

メディアからみる明治期の薙刀～武道家小松崎古登子の事跡を中心に

講師：塩山 皐月（京都大学大学院：なぎなた専門分科会）

本報告では明治 30 年代の新聞雑誌や女性雑誌に掲載された戸田派武甲流薙刀術師範の小松崎古登子（1846～1912 年）に関する記事から、日本の近代化に応じた薙刀教育の取り組みについて論じる。小松崎、メディア、啓蒙家たちとそれぞれの薙刀との関わり・薙刀観に注目し、背景にあった女子教育論の展開も含めて報告する。

Depictions of Japanese Martial Arts in Western Pop Culture and Their Influence on American Preconceptions of Training in Japan

講師：Harry Kearns（桜美林大学：空手道専門分科会）

My early images of Japanese martial arts involved a wise old man secretly instructing a young protégé in ancient and lethal fighting skills in order to protect himself and love ones from some outside threat. This fantastical image of Japanese martial arts that I had as a child was obviously influenced by western media depictions of Japanese martial arts. In this presentation I will discuss the depiction of Japanese martial arts in American popular culture and how this representation has influenced American preconceptions of Japanese martial arts training in Japan. The presentation will be divided into three sections. In the first section, I will discuss the portrayal of Japanese martial arts in American popular culture, such as its depiction in cinema, video games and American comic books. Next, I will explore how these depictions have influenced American preconceptions of not only Japanese martial arts themselves but also training methods in Japan. Finally, I will talk about the differences in American preconceptions of martial arts training in Japan and the reality of training in Japan and how it can lead to culture shock for American martial artists.

障害者武道専門分科会企画シンポジウム

テーマ「障がいある武道家が目指すパラリンピック
-来年度の国際会議に向けて-

Preliminary session for the international conference of the 2017
Paralympic Games for Budoka with disabilities

話題提供者： 伊藤 勝治 (生和会)
大島 修次 (国際武道大学)
三村 由紀 (防衛大学校)
矢崎 利加 (国際武道大学)
コーディネーター： 森脇 保彦 (国士舘大学)
松井完太郎 (国際武道大学)

日時：平成 28 年 9 月 8 日 (木) 13:30 ~ 15:00
場所：皇學館大学 6 号館 622 教室
参加無料 (一般の方も参加できます)

この趣意書が公になる頃には、空手道が 2020 年東京オリンピックの種目になることが正式に決定しているはずですが、I O C 総会の審議結果がいずれにしても、競技普及における課題は、武道の「伝統」と「グローバル化・大衆化」を議論する上で大きなトピックスとなります。

そこで障害者武道専門分科会では、今年度の分科会企画を、来年度の国際大会に向けた準備企画と位置付け、既にオリンピック・パラリンピック競技となっている柔道(視覚障害者柔道)、そして、これからオリンピック・パラリンピック競技になろうとしている空手道を題材に、障害ある武道家が目指す競技大会の在り方に関する議論を深めるためにシンポジウムを企画しました。

表題にあるパラリンピックだけでなく、デフリンピックやスペシャルオリンピックも射程に、指導現場からの視点(伊藤)、パラリンピック競技としての武道(矢崎)、採点競技におけるクラス分け・判定法(大島・三村)を中心に議論を進めます。また、ただ単に障害者が参加する武道競技会のあり方を議論するだけではなく、来年度のシンポジウムのタイトルを、仮に「障がいある武道家が出場するオリンピック・パラリンピック Budoka with disabilities, participants in the Olympic or Paralympic Games」と設定して、障害者による武道と健常者による武道の「包括化」のあり方をも探るシンポジウムになることを目指します。

会員以外の参加も無料です。参加をご検討なさっている方々など、多くの方の参加をお待ちしております。障害者武道に関する調査・研究が進めば、各武道専門分科会の中に取り込まれることが理想であり、その意味では、この専門分科会は各武道に奉仕し、いずれは解散することを目指す分科会となります。

なお、同会場に於いて平成 28 年障害者武道専門分科会総会も開催します。

柔道専門分科会シンポジウム

テーマ「競技現場に学術的・科学的サポートはどのように貢献できるか」

シンポジスト：木村昌彦（横浜国立大学・強化副委員長）

井上康生（東海大学・全日本男子監督）

司 会：石川美久（大阪教育大学）

日時：平成 28 年 9 月 8 日（木）13：30 ～ 15：30

場所：皇學館大学 7 号館 711 教室

<趣旨>

2016 年ブラジル・リオデジャネイロにてオリンピック・パラリンピックが開催された。ロンドン五輪終了後から新たな強化体制になり、さまざまな取り組みがなされてきた。その強化体制の指導計画・内容を強化副委員長（リオ五輪ではチームリーダー）および男子監督から報告を受ける。

さらに、我が国では 2020 年東京五輪を見据え、今後どのように学術的・科学的なサポートができるかを参加者がグループに分かれて意見交換し、競技力向上を目指した科学研究の役割を考える場とする。

<プログラム>

13:30 趣旨説明・講師紹介

13:40 木村昌彦氏・井上康生氏講演

リオ五輪柔道競技に観る他の柔道強国と比較した日本柔道の競技力の現状と課題

質疑応答

14:20 高橋 進氏（ファシリテーター）

柔道専門分科会として学術的・科学的にどういったサポートができるか

グループ討議・発表・ディスカッション